

< 本 編 >

序章．本調査の目的と概要

序－１．調査の目的

歴史都市の観光的な魅力を高めていくためには、風情のある景観の保全・活用とともに、まちなかを歩くなどにより、じっくりと良さを味わってもらえる仕組みの提供などが必要である。

京都の落ち着いた景観を形成する重要な要素として京町家が挙げられるが、近年多くが建て替えられるなど、古くからの町並みが崩壊する危機に瀕しており、京町家を維持保存し有効活用していく方策として、文化体験や宿泊など観光分野での利用も検討していく必要がある。

一方、古い町並みなどまちなかの魅力を提供するためには、「歩いて楽しむ観光」の推進が必要であり、歩行者の視点にたったわかりやすい観光案内ができる仕組みが求められる。京都市内でも特に多くの観光客が集まる地域では、交通集中による混雑の緩和と、地域の観光魅力の面的な拡大のため、歩行者を誘導する効果的な観光案内図板等のネットワーク整備が必要となっている。

また、観光案内所についても、例えば市内全域にミニ案内所を網羅的に設置することにより、より緻密な案内と周辺観光情報の提供が可能となる。さらに、世界遺産である平等院などの史跡が集積している宇治市中心部においても、各資源を巡るルートが必ずしもわかりやすく情報提供されておらず、市内に３箇所ある観光案内所の機能の充実もふくめた検討が求められている。

本調査においては、歴史都市の景観形成に重要な役割を担う京町家について、その現況及び観光利用のための課題を整理する。また、京都市内全域での観光案内を可能とする方策として「まちなか観光案内所（仮称）」の設置に関する実証実験を行うとともに、東山地域をモデルとして、観光案内図板等のネットワーク化方策について検討を行う。さらに、宇治市中心部において、効果的な観光案内や情報提供のあり方について、観光客ニーズ把握を踏まえた検討を進める。これらにより、歴史都市の観光魅力を高めるための諸方策を示すこととした。

序－２．調査の概要

(1)町家の観光活用に関する現状調査

京町家の現況や、その活用状況、観光利用に関する課題等につき整理し、京町家活用検討のための基礎資料とした。

(2)まちなか観光案内所設置に関する実証実験

民間の施設・店舗等の協力により運営を依頼するミニ案内所としての「まちなか観光案内所（仮称）」を、京都市内全域に設置していくため、設置エリアや協力施設・店舗の調査、運営の実験的实施を行い、結果をとりまとめた。

(3)観光案内板のネットワーク化方策に関する調査

京都市東山地域をモデル地域として、案内板の設置場所や表示内容についての現状把握を行い、必要な適正化等の対応とその検証を行うことで、「歩いて楽しむ観光」推進にむけ、観光案内板のネットワーク化方策としてとりまとめた。

(4)宇治市中心部における観光案内機能整備に関する調査

観光客の動向や案内所へのニーズ把握を踏まえ、より効率的・効果的な観光案内機能のあり方と、市内中心部を歩いて楽しむモデルルート及びその情報提供方法について検討することにより、市内での観光客の滞在時間拡大を図る諸施策展開のための基礎資料とした。